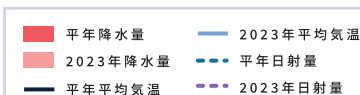


2023年の夏を振り返る —気象データと病害診断結果より—

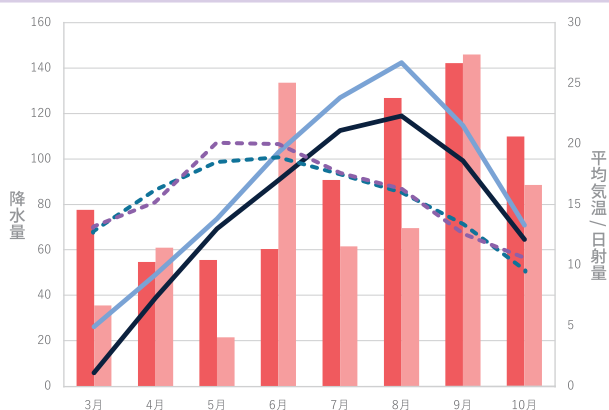
2023年の気象データから読み取れること

全国的にとにかく暑く、また残暑も厳しかった



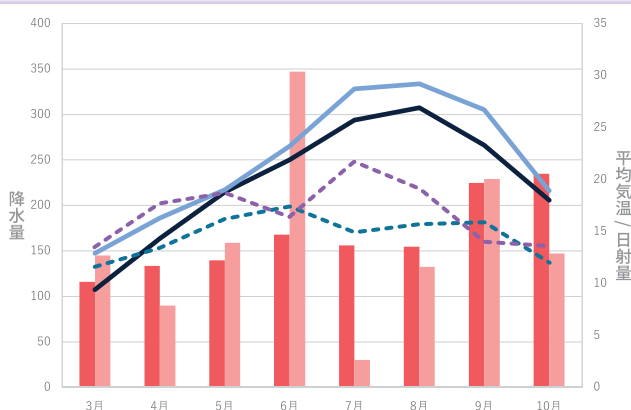
北海道(札幌)

- 3月～10月まで常に平年よりも気温が高い状態であった。特に6月、7月は例年よりも2℃以上、8月は例年よりも4℃以上平均気温が高くなっており、北海道としては厳しい暑さに見舞われたことが伺える。
- 6月の降水量は平年の2倍以上であったが、7月、8月は降水量が例年より少なく、高温と相まって寒地型芝草には厳しい夏となった。



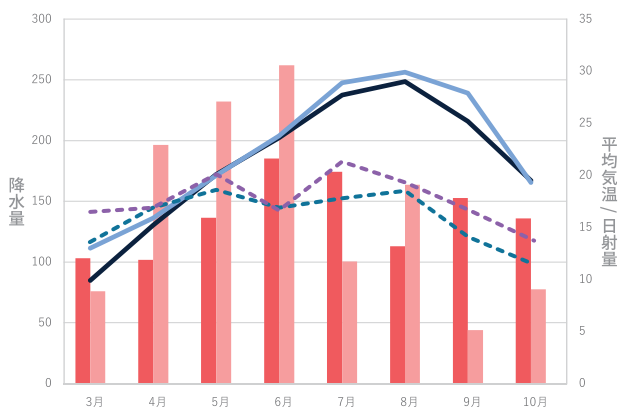
関東(東京)

- 5月を除いて平年よりも高い気温で推移し、特に7月と9月の平均気温は平年よりも3℃以上高くなった。
- 6月の降水量は例年の2倍以上と多かったものの、7月の降水量は極端に少なかった。
- 7月から厳しい暑さと乾燥が続き、そのまま酷暑の夏を迎え、残暑も長く厳しいものとなったことから、多くのコースでベントグラスグリーンに大きなダメージを負ったと考えられる。



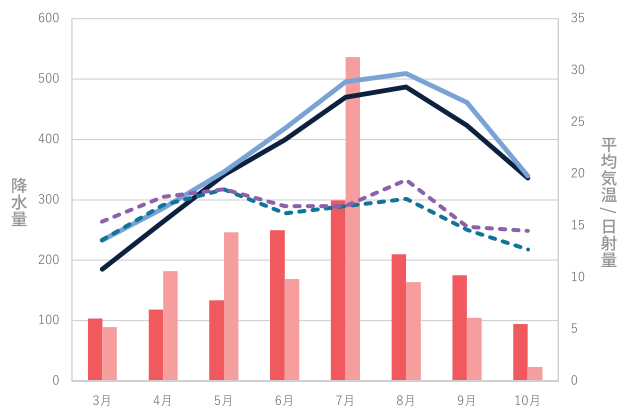
関西(大阪)

- 4月～6月の平均気温はほぼ平年値の気温であった。7月以降は平年を上回る気温となり、特に9月は平年よりも2.5℃以上高くなった。
- 降水量は4月～6月、8月と例年よりも多く水管理に苦労したことが伺える。また、ベントグラスグリーンにとって一番厳しい時期となる9月は高温＋少雨となり、ここでも多くのコースでベントグラスグリーンに大きなダメージを負ったと考えられる。

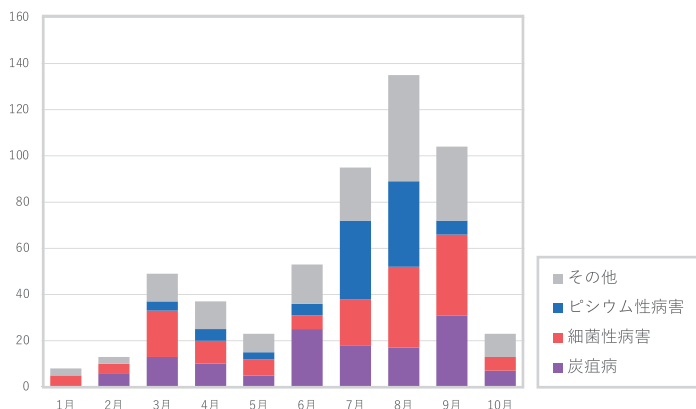


九州(福岡)

- 5月を除いて平年よりも高い気温で推移し、特に9月の気温は平年よりも2℃以上高くなった。
- 7月の降水量が極端に多くなっており、高温と相まってベントグリーンの水管理に苦労したことが伺える。
- 8月以降は降水量が平年よりも少なめで推移しており、特に10月の降水量が極端に少なかった。

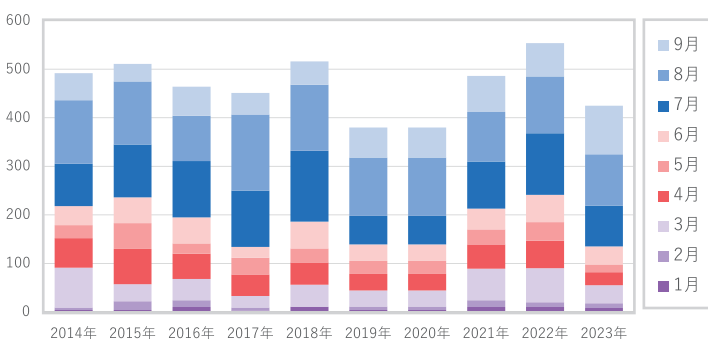


2023年の病害診断結果から見えること (2023年1月～10月の寒地型芝草の病害診断結果より)



2023年1月～10月までの病害診断結果

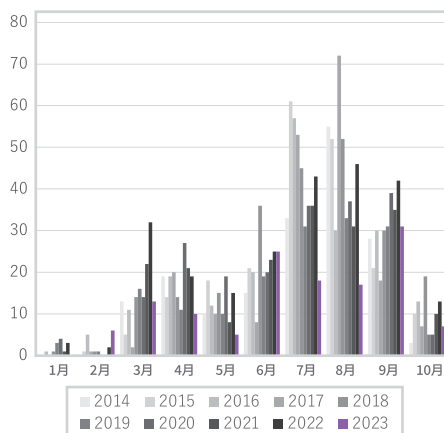
- 病害診断数の傾向としては例年と同じように8月の診断数が多く、次いで9月、7月の診断数が多かった。
- 7月、8月は気温が高かったこともありピシウム性病害の発生が多かったと考えられる。
- また、8月、9月は「その他」の割合が高くなっているが、そのほとんどは「病原菌無し」であった。ベントグラスの落ち込みが見られ病害診断を依頼したが、主要病原菌は見られず、原因不明（いわゆるサマーデクライン）と診断されるケースが多く見られた。



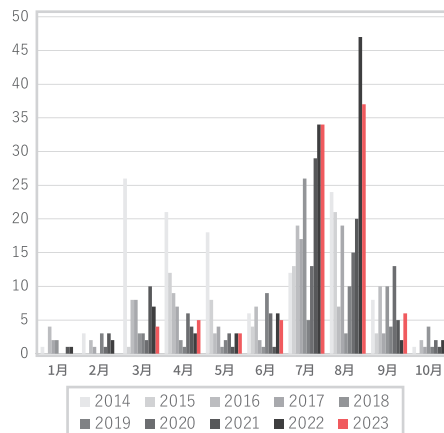
2014年～2023年までの病害診断数の推移

- 病害診断の依頼数を見てみると、意外にも2023年の診断数は例年に比べるとそれほど多くなかった。このことから、病害よりも暑さや乾燥、過湿などによってダメージを負ったベントグリーンが多かったことが伺える。

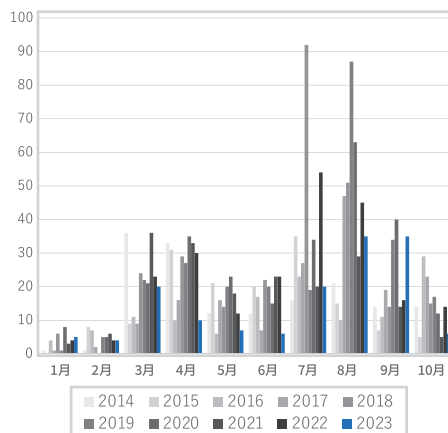
炭疽病



ピシウム性病害



細菌性病害



ベントグリーン3大病害 (炭疽病、ピシウム性病害、細菌性病害) の年次別比較

- 2023年は、特に7月及び8月に炭疽病と診断される件数が極端に少なかった。これは、あまりにも暑すぎで炭疽病菌の増殖最適温度を超えてしまったことが要因と考えられる。
- 一方で高温多湿を好むピシウム性病害は多くのゴルフ場で発生したことが伺える。
- 細菌性病害は9月の発生がやや多いものの、今年は大発生した月は見られなかった。

猛暑に備える必需品

ストレスガード製剤予防散布プログラム

シグネチャー®
WDG

ミラージュ®
フロアブル

インターフェース®
フロアブル

▼詳しくはこちら
ストレスガード製剤技術



タイムリーな芝草管理情報を配信中！

- 1 LINEの「ホーム」から右上のアイコンをタップ
- 2 右記のQRコードを読み取って、友だち追加！

